

高齢者軍団が行く

副代表 谷川勝男

十年。
十年一日とか、十年一昔とか。

何かぼんやりとしたままスタートした「支援する会」も、その十年。

会の活動に命を吹き込んでくださったのは、逢坂信治代表。

六年前、研修医の先生方との焼き肉交流会が提案されて、戸惑いつつも回を重ねて、今では、余裕を持って若い研修医の皆さんをお迎え出来るまでになった。

逢坂代表が「味覚園」と「オホーツクビール園」の温かなご協力を取り付けてくださったって、今に至る。

会が誇れる、かけがえのない取り組みとすることが出来ると思うのである。

その六回目、齋藤

高彦副院長先生がご参加くださり、会員のささやかな活動に、身にあまるメッセージを戴いた。

そして、六つのグループ(焼き肉のコンロ)それぞれに顔をだしてくださったの歓談・交流、忘れがたい”思い出”をつくつて戴き、ありがとうございます。

出合いの一瞥で、その人の好悪は分かる。人の”顔”はごまかしようがないから。

いうまでもなく「主役」は、「研修医」の先生方。

たまたま隣り合ったのが川人慎先生。

両親がともに医師である、と教えられた一瞬で、川人先生

への好感度が増した。

両親が医師なら超絶的、文字通りのエリート。が、川人先生の表情にはエリート”臭”のかけらもない。そういう”息子の表情”をつくられたご両親の在り方への尊敬の念を深くさせられた。

要名本あゆみ先生。なんと、なんと。苗字をなんとお読みすれば良いか。

それでお声をかけることができた。人一倍ナイーブで、特に”女性”に弱い副代表が。

女性を排除した医大があった。

それは女性への差別ではあったが、より以上に、”恐れ”であったと思う。

今、この国では、あらゆる分野で女性”上位”の気配が

ただよいはじめている。大好きな女優が吉田羊さん。

「メデイカル レイ・ダ・ヴィンチの診断」は女性医大活躍のドラマ。台本がいいし吉田羊さんの”主役”ぶりがいい。

会場で要名本あゆみ先生の様子を、女医吉田羊にかさなつた。

医療ドラマで、女医はまだ”特別”なあつかい、しかし”ドクターX”の登場は近い。

支援する会は十年前、一方的な「勝手連」のようにスタートしましたが、病院の皆様が応援してくださる”窓口”としてお世話くださったのが歴代の総務課長さんと、係長さんでした。

今は、鈴木由美子課長さんと高松伸行係長さん。

高松係長はいつもひかえ目、けれど道

立のお二人と日赤の若い職員の方たちとともに、文字通り縁の下の力持ち、焼き肉交流の準備と後始末に心して、格別のご協力をいただいたことに改めて感謝申し上げます。

そして、鈴木由美子課長。

院内でのお姿とはまた違って、九頭身かと思わせる美しさのリズムあるイメーで暑さを吹きとばしてくださった。八頭身美女伊東絹子さんが、この国に勢いをつけてくださったのは敗戦後程なこのこと、今や、滝川クリステルさんが進次郎妻として登場なさるまでに「国際化」は進化している。

そんな時代の鈴木課長は、さりげない気配りで、周りの気持ちに勢いをつけてくださっているかのよう。

中川昌彦・真希さんご夫妻は阿久津俊

子さんのご家族。初めての参加で、研修医の先生方が焼き肉を存分に楽しめるようにしてください。

森実和美副代表ご一家の”三きょうだい”は六回目の参加。

親子兄妹の家族がそろって”大人”の催しに参加というのも「支援する会」ならではのことで、活動が十年継続できたことの”成果”といっても良いだろう。

謙田照視さん。高齢者軍団の「支援する会」の高齢者のお一人。

ビールのお世話をしてお下さって六年。目立たないところで、淡々とお手伝いくださって、会を支えて下さっている。人は、老いて、やがて去って行く。

この「会」も、いつの日か、そのようにして消えていくと思いますが、悔いなしと思えますが！。



北見での思い出づくりの集いの6回目も晴れでした。平成26年の1回目から雨にあたったことはありません。天のご加護を信じる思いです。

今回は森実副代表、森実事務局次長や阿久津さんのご息女とそご主人など若手が活躍したのが大きな特色です。

彼らは会場の設営、食品の管理等意欲的に活動を展開し、主催者側の活動は若返った。

来年も若い皆さんと共に支援する会の活動が出来ればと願っています。

思い出づくりの紙面作りで多くの写真を使っています。今回は病院の教育研修推進室の伊藤さんのご了解を得て、写真を複数枚利用しています。有り難うございました。

(逢坂)